

情熱

J R 東 労 組 大 宮 地 本 青 年 部
発 行 責 任 者 畠 山 豪 部
編 集 責 任 者 教 宣 部

No.009 2022年11月15日

申6号「年末手当等に関する申し入れ」会社回答に対して 大宮地本青年部抗議声明発出！！

全青年部員で組織の拡大を推し進めよう！

「年末手当 2.4カ月+2万円」の低額回答を許さない！

組合員・社員と共にとたかい抜く抗議声明！

11月11日、JR東労組の「3.3カ月+5万円」の要求に対して会社は「2.4カ月+2万円」の低額回答を示した。青年部員や社員は安全・安定輸送の確保を前提に、矢継ぎ早に実施されている様々な施策を担い、過去最高度の働き度である。その結果第2四半期決算も黒字決算であったにも関わらず、夏季手当より「0.1カ月+2万円」増額された回答では到底納得することは出来ない。大宮地本青年部は要求額とあまりにも乖離している回答に対して怒りを持って抗議するとともに、改めて満額回答を強く求める。

我々は年末手当交渉に向けて青年部員だけでなく未加入者からも「物価上昇が止まらず我慢せざるを得ない」「基本給が少ないので手当だけが頼り」「やる気、やりがいの搾取みたいなのは辞めてほしい」等の生活実感や労働実感等の声を掴み、交渉で訴えてきた。しかし会社は「先行き不透明」「業績予想を下回る厳しい状況」「楽観視出来ない」「有利子負債が1兆円増加している」と低額回答の根拠を回答書で示しているが、業績予想を立てたのは会社であり、下回った事は経営陣の責任である。それを私達に押し付けることは到底納得することは出来ない。また、会社は「有利子負債が増したことによって賞与を抑制した認識はない」と回答していたのにも関わらず回答書に書かれた事は騙された感覚である。更に、役員報酬の自主返納をいつの間にか止めていた事も明らかになり、私達だけ賃金が抑制されている事に怒りが湧く。人材流出の危機感に関しても昨年度だけで約600名が退職している事に対して青年部から問題意識を強く訴えてきた。会社は「2.4カ月の回答に離職防止も含まれている」と回答しているが、離職防止に繋がる回答だとは思えない。青年部員からは「会社は社員の事を全く考えていない事が分かった」「役員報酬の自主返納はせず、私達には我慢を強いる姿勢に怒りが湧く」「この会社に夢も希望も持てない」「覚悟を持っての最大限の回答」というが覚悟が一切見えない「この回答では転職を考える」等の悲痛に似た叫びが出されている現実に対して会社は真摯に答えるべきだ。

収益が好調の時には「突出感」、赤字の時には「足元の動向」、そして黒字に転換すれば「先行きが不透明」を理由にされ、低額回答を繰り返す経営姿勢を認める訳にはいかない。組合員・社員の力・モチベーション維持・向上なくして会社の持続的発展は成し得ない。その実現に向けて労働条件の最たる賃金で答えることを再度強く訴える。

この回答を許してしまえば会社の利益追求のためにのみ働かされてしまう危機感から、大宮地本青年部は今回の低額回答を断じて許す訳にはいかない。そして、この低額相場をつくり出しているのは社友会であることは明白である。労働条件や賃金を向上させる事が出来るのはJR東労組だけであり、運動を妨げる社友会との決別を通じて未加入者の結集を全青年部員で必ず成し遂げていこう。

2022年11月13日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部青年部

低額回答に対しての怒りの声が続出！